

第 23 回警察庁会計業務検討会議概要

〔案件 1〕 福島県警察本部用指令通信装置(情報処理系)賃貸借

- 【委員】 更新整備、経年劣化による更新整備ということだが、この通信システム全体の中の通報処理系のみを更新する取引ということでは、どうか。また、一者入札となった原因については、どのように考えているのか。
- 【回答】 通信システム全体の中の情報処理系のみを更新する取引である。指令通信装置を東北で整備している製造メーカーは、NEC と日立の二社であり、今回は既存の通報分配系が日立であるため、一者になったと考えている。
- 【委員】 本件について、改善点はどこにあると考えるか。
- 【回答】 この入札に当たっては官報で公告しているが、そもそも製造メーカーが二者しかないというところで苦勞している。もう少し他が参入できるような仕様にするというのが一つだが、突然変えても、安く入札できるのは実績のある業者になるかと思う。
- 【委員】 今回 NEC が入札できなかった理由については、きちんと確認し、その上で、他社が入札しやすくなるようにする必要があるのではないか。
- 【回答】 入札に当たって官報で行った仕様書作成前の資料提供招請の際に、資料提供者はなかったもの。その後、仕様書確定のために意見招請を行ったが、そこで興味を示したのは日立のみであった。
- 【委員】 一者応札になった理由については、どのように考えているのか。
- 【回答】 仕様書はどのメーカーでも参加できるように作成しており、インターフェイスの仕様も開示しているため、入札しなかった理由は不明である。
- 【委員】 典型的なベンダーロックインの案件であるように見えるため、そのような疑いを持たれないようにしていただきたい。
- 【回答】 承知した。
- 【委員】 見積金額の妥当性のために、二社に見積書提出の依頼はできないのか。
- 【回答】 興味を示していない業者への見積書提出依頼は難しいところもあるが、今後は協力を求めていくことを検討したい。
- 【委員】 見積もり段階で協力してくれる会社を増やしていく必要があるのではないか。
- 【回答】 承知した。

〔案件 2〕 運転免許証の個人番号カードへの搭載に係るカードアプリケーション搭載システム用機器

- 【委員】 マイナンバー関係のシステムに市場なるものがあるのか。また、今回構築するシステムは他省庁との共同事業のようなシステムとしての可能性があるのか。

【回答】 まず市場に関しては、一般的なウイルス対策ソフトなどの市場価格を参考とした。また、共同利用について、現時点で新たなシステムの開発には至っていない。

【委員】 デジタル庁はどのように関わっているのか。

【回答】 デジタル庁の持っているシステムに組み込むには膨大なデータ量であり、免許証の関係であれば、警察庁でシステムを開発した方が良いという議論があった上で、今のような仕様となっている。

【委員】 随意契約で、なぜNTT コミュニケーションズが選ばれたのか。

【回答】 公募の結果、マイナンバーカードに関するシステム整備をしているNTT コミュニケーションズになった。

しかし、他社参入の可能性を排除せずに、今後も公募の手続きを確実に実施して進めていく。

【委員】 なぜ売買契約なのか。

【回答】 マイナンバー関係の施策は色々と動向が動いているため、リースではなく買い取って整備を行った方が良いと判断し、売買契約を締結した。

【案件3】 トナーカートリッジ(CT203091)外 24点

【委員】 仕様書の交付者が16者にも関わらず参加業者が1者のみであり、落札率88.4%と価格が安すぎる訳でもなさそうだが、参加者が少ない理由はなにか。

【回答】 業者に聞き取りをした結果、配分の対象が全国となっているところが障壁になっていると感じている。

【委員】 まとめるか分割とするかの検討は行ったのか。

【回答】 常々行っているが、コストメリットなのかスケールメリットなのかの比較検討の可能性はあると考えている。今後も見極めながら進めようと考えている。

【案件4】 分析担当官育成に係るトレーニングの実施

【委員】 競争性があるのになぜ落札率が100%なのか。

【回答】 令和4年度にも入札に参加しており、金額の相場感をつかんでいたためと思われる。

【委員】 最低価格落札方式だが、トレーニングのような技術的なものは金額だけでは測れないものがあると思うがいかがか。

【回答】 今回のトレーニングの内容は、初級者、中級者を対象としており、技術的なもので見えにくいものである。また、仮に企画競争や総合評価とした場合に、業者に過度の負担を強いることになった結果、入札業者の方からの提示金額が高くなってしまわないかということもあり、今回は最低価格落札方式を選択した。しかし、トレーニングの内容は適切なものになるよう大前提として

検討していきたい。

【案件5】ガスクロマトグラフ質量分析装置

【委員】 取扱業者が少なく、全国展開可能な業者は限られていると理解しているが、仕様書は特定の商品を想定したものではないのか。

【回答】 特段製品指定はしていない。入札説明書をダウンロードしたが入札に参加しなかった業者に聞き取りしたところ、金額的に対応できない、部材が間に合わない、仕様条件に一致しない、扱える機器がないとの回答があった。

【委員】 各社は、仕様に合致するものを製作するのではなく、仕様書の要件を満たしている自社製品を売っているという理解でいいか。

【回答】 今回はそのような形になっている。

【委員】 老朽化した場合、誤作動や誤った反応が見られるのか。

【回答】 鑑定結果に影響を与えるというよりは、機器が停止することで、鑑定も止まる可能性がある。

【委員】 今回は20個購入しているが、老朽化しているのは20個だけなのか。または、他にもあるが、今回は20個だけなのか。

【回答】 平成30年度から5か年計画で整備している。

【委員】 途中で機械が止まることのないよう、適切な調達を今後も計画して努めていただきたい。また、その際には、きちんと全国均一な条件で結果が出るように、仕様書の作成に至っては、同じものが偏ることのないような配置等も考えていただきたい。

【回答】 承知した。

【委員】 物価が上がっているため難しいと承知しているが、見積価格について過去のものと比較はしたのか。

【回答】 令和4年7月の時の実績価格とほぼ変わらない。

【案件6】中央合同庁舎第2号館20階ほか照明設備改修(LED化)工事

【委員】 追加工事が起きた理由はなにか。

【回答】 工事期間中に故障が発生した箇所、老朽化していた箇所を追加したため。

【委員】 入札資格は厳しいのか。

【回答】 入札資格は内閣府の工事競争参加の入札資格を使用しているため、問題ないと考えている。

【回答】 承知した。

委員講評

【委員】 やむを得ないところは理解しつつも、一者応札で落札率 100%となる外形的に疑われてしまう可能性があるため、新規産業を増やす、あるいは一者応札や随契になっても、できるだけコスト削減の動力をするなど引き続き様々な手法を凝らし、効率的な調達をしていただきたい。

【委員】 個別の案件については、努力が感じられる。一方で、単年度の視点になりがちと感じられるため、何年か継続して機器を入れ替えるのであれば、過去の価格と比較することや、情勢に合わせて機動的に変更していただきたい。また、デジタル庁から専門的な知見をもらうことや共同で調達することも考えていただきたい。

【委員】 客観的な証拠となるものを得る機材については、安く調達するというよりは、全国なるべく統一的に正確性の高いものを調達していただきたい。